



INGING MOTORSPORT



INGING NEWS PAPER

INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [<http://www.inging.co.jp>] インギングニューズペーパー



Race Report

Round.3 FUJI SPEED WAY 7/9 Final

決勝 7月9日 富士スピードウェイ

TAKE FREE



石浦選手、今季待望の

初優勝

Next Race ROUND.4 TWIN RING MOTEGI 8/19.20

Support by © cyber net



石浦、貫禄の走りで今季初優勝!

Race Report 決勝 2017年7月9日 富士スピードウェイ
Round.3 FUJI SPEED WAY 7/9 Final

天候:晴れ | コース状況:ドライ | Time [1:20'09.046] / Best [1'25.663]

予選日に引き続き、朝から30℃を超える暑さに包まれた富士スピードウェイ。スーパーフォーミュラで自身初のポールポジションを獲得した国本道真は、午前9時10分から始まったフリー走行では決勝を見据えたロングランのチェックを行っていた。石浦はセッション総数の数分で一気にベストラップを更新し4番手という結果でフリー走行を終了。午後2時過ぎから始まる決勝に向けて、チームは準備を進めていた。スタート直前に聞かれているウォームアップ走行は、コースコンディションチェックなどがメインで倍が8分のセッションだが、ここではP.MU CERUMO-INGINGは国本が3番手、石浦が4番手と上々のタイムをマーク。気温32℃、路面温度44℃というコンディションで55周の決勝レースがスタートした。技量の飛び出しを見せたのはポールシッターの国本。一方の石浦は出走してしまい、2列目にいた2台に先行を許しオープニングラップを4位で終えることになった。国本はファステストラップを出しながらレースをリードし、4番手から石浦が追いつける展開で決勝レースは進んでいった。後述のようにギャップをどんどん広げていく国本に対し、先行された2台によってペースが上げられなかった石浦だったが、13周目に3番手を走るマンが、翌日に2番手を走るマンが早めのピットインを選択。これで前方がクリアになった石浦は、トップを快走する国本と共に2台で後続を引き離していく。その後石浦は国本を上回るペースを見せ、119秒近く開いていた2台のギャップはみるみる縮まり、30周目には4秒近くまで接近。ここで、国本が再びピットへ向かい、チームはタイヤの4本交換とガス補給を済ませ、国本をコースへと送り出した。ところが、コースへと戻った国本からマンの異変を伝える無線がチームへと届く。国本はもう一度ピットへ入りマンのチェックをしてコースに戻るが、症状は改善されず再度ピットイン。今度はタイヤを交換するも、マンの異変は解消せず。惜しくもここでリタイアとなった。国本の思わぬトラブルによりトップに乗り出した石浦は、その後も自身のファステストラップを塗り替えるなどハイペースで周回を重ねていく。38周を終えたところでピットへ向かい、タイヤの4本交換とガス補給を済ませてコース復帰。全車がピット作業を終えて順位が整理されると堂々のトップへと戻り咲いた。その後、ファステストラップは2番手から追いつけるマンに譲ったものの、最後まで危ない走りを見せ後続を寄せ付けずチェッカー。昨年の第2回岡山大会以来となる勝利を飾った。



<p>No.1 国本 雄資 / Y.Kunimoto</p>  <p>「ピットに入る前から、何かクルマの様子がおかしいと感じてチームに伝えました。最初はタイヤに問題があったのかと思ったのですが、タイヤを交換しても症状が改善しませんでした。スタート直後のタイヤに違和感を感じ、予選でも似たような症状を感じていました。レース中のペースも本当はもっと速かったと思っています。そういう部分に関してはいい選手でしたが、トラブルで結果が自分から出たのは非常に残念です。いい選手なのにパフォーマンスが落ちますが、サーキットが変われば状況が変わる可能性があります。今回はうまく組み立てられたし、いい戦いはできたと思います」</p>	<p>No.2 石浦 宏明 / H.Ishiura</p>  <p>「今シーズンは早い段階で勝たなければチャンピオンシップは厳しいと感じていたので、今回は勝たないとは思っていませんが、実際は予選から国本に負けたのがありました。決勝でもスタートを失敗してしまい、悪いスタートになるんじゃないかという不安が、直前に襲ってきました。チームとしては1-2が見えていたのですがそれは無いですが、僕のアクションも周りに伝わらなかつたので、それだけの結果に終わった。悪いスタートで苦しんでくれたチームに感謝しています。それと、自分の力を出し切れて、今はすっきりしています。シリーズチャンピオンでトップに立ちましたが、さらにリードを広げられるよう、次も頑張ります」</p>	<p>監督 立川 祐路 / Y.Tachikawa</p>  <p>「まずは、石浦の優勝を喜びたいと思います。全体を通して、非常に素晴らしいレースを見せてくれました。ただ、今日は正真正正1-2でいい展開でなし、その可能性は大いにあったと思うので、国本のマシンのメンテナンスがうまく行って良かったと思います。国本は、今週の国本は本当に良かっただけに、トラブルに関しては少し寂しいと思っています。しかしこれだけで終わりでないので、これから準備を進めます。今週はドライバーを揃えずに、2台でチャンピオンシップを争ってほしいと思っています」</p>	<p>総監督 浜島 裕英 / H.Hamashima</p>  <p>「国本には申し訳ない結果になりました。遠征は見せられたし、その速があったから石浦が優勝できた。2台をチームワークで動かしていい選手だったので残念です。もう一度優勝を達成し、チャンピオンになるのにはまだ足りない選手だと思います。それをしっかりと結果で示せるよう、次戦も頑張ります」</p>
--	--	--	--